

「浜甲子園団地第Ⅳ期計画」

令和2年12月15日協議終了

行為の概要

申出者	住所 大阪府大阪市城東区森之宮1-6-85 氏名 独立行政法人都市再生機構西日本支社 支社長 田中 伸和
設計者	住所 大阪府大阪市中央区城見1丁目2-27 クリスタルタワー12階 氏名 株式会社URリンケージ 西日本支社 株式会社 山本・堀アーキテクト 担当者：平田 貴彦
行為の場所	西宮市枝川町1-3の一部
敷地面積	22,948.04 m ²
施設用途	共同住宅
建物規模	RC造 建築面積 6,448.93m ² 延床面積 25,267.97m ² 高さ 約18m
備考	

※この資料に記載の内容は、令和2年12月15日時点のものであり、その後変更となる可能性があります。

景観アドバイザー一部会での意見概要と検討結果について

-議題 1-

浜甲子園団地第Ⅳ期計画（計画策定段階協議）

意見の概要及び協議事項	検討結果
<p>【配置計画について】</p> <p>(1) 今回敷地の東側道路は、川沿いに位置し、南北を行き来する主要な路線であるが、川沿いの連続性を分断するように大きな板状の住棟が4棟配置されているため、圧迫感を軽減するよう、第Ⅰ期などで実施した分棟化を検討することが望ましい。また、当該住棟1階部分についても、川沿いの連続性を生かすような建築的工夫を施してほしい。</p> <p>(2) 今回敷地の西側道路の歩行者専用道には、樹木が少なく、接する駐車場も目立ってしまい、裏通りを感じさせる配置となっているため、敷地内西側に住棟を配置し、中心部に緑と調和するように駐車場を設けてはどうか。</p> <p>(3) 住棟間に配置された自転車置き場について、均質的に設置されているため、景観的な影響が大きいように思われる。もう少し集中的に配置して、その周りに緑地を配置する計画にしてはどうか。</p> <p>また、上屋付き駐輪場と芝生駐輪場をセットで分散させているため、どこにいても駐輪場が目にはいるのではないか。それぞれ集約させることで、芝生駐輪場にあっては、まとまった緑地部分として確保することができ、緑とのメリハリが付けられるのではないか。</p>	<p>(1) 枝川沿いに対しての圧迫感の軽減については、東西板状住棟配置を行い、住棟間の広場を枝川沿いに配置することで、川沿いから開放感を感じられるように配慮します。</p> <p>また、当該住棟1階部分については、川沿いに面するエントランスや集会所を統一したガラス面を使用することで、枝川沿いに連続したリズムのある街並み景観形成を行っていきます。</p> <p>(2) 駐車場を西側に配置する事で、歩車分離を行い、居住エリアの安全性及び豊かな屋外環境を確保した。西側の駐車場には、バランスよく緑地帯（芝生スペース）を設けることで、無機質な環境とならないよう配慮を行う計画としています。また、将来計画が未確定である西側の隣接地に対して、板状住棟の引きを設けることで双方に対する悪影響を避ける計画としています。</p> <p>(3) 住民動線及び団地内景観への配慮から、歩路や緑地帯を効果的に織り交ぜることで、駐輪場のボリュームを分散させ、固まった大きい駐輪場スペースとならないよう団地内環境に配慮した計画としています。</p>

景観アドバイザー一部会での意見概要と検討結果について

-議題 1-

浜甲子園団地第Ⅳ期計画（計画策定段階協議）

意見の概要及び協議事項	検討結果
<p>【立面計画について】</p> <p>(4) 団地であるため、妻面などがあまり無機質にならないよう、立面計画にあっては、良い意味で生活感の感じられる窓の配置を検討してほしい。</p> <p>【照明計画について】</p> <p>(5) 照明や外観の色彩に関して、今回敷地、また浜甲子園団地再生事業全体との整合については、現時点でどのように考えているのか。</p> <p>【植栽計画について】</p> <p>(6) 以下の4点について検討いただきたい。</p> <p>＜枝川沿い＞</p> <p>数種の落葉広葉樹を列植する計画と推察され、保存木がクロマツであり、青空の広がり確保できる箇所であるため、円錐形の樹木を基本とすることを推奨する。</p> <p>また、休憩スポットでは、ケヤキ等の扇形の樹木で緑陰を確保した方が良い。その場合は、植栽位置を敷地内部にズラして、見通しを確保しつつ景観にリズムをつけると良いと思う。</p> <p>樹種選定においては、既存樹との調和を考慮することが求められる。</p>	<p>(4) 妻面の窓について今後検討を行う。</p> <p>(5) <照明>浜甲子園団地再生事業全体との整合を考慮し、温かみのある電球色の照明を主体に考えています。</p> <p><外観の色彩>浜甲子園団地再生事業全体との整合を考慮し、ヒューマンスケールを意識した層による分節を行う色彩構成とします。色彩については、浜甲子園Ⅲ期との関係性に配慮するとともに、並木街路の緑の背景となり青空に映える白を基調としつつ、周辺の街並みや緑環境との調和を意識したファサードとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低層部：豊かな緑が映える優しい白色系 ・中間部：グレー色による横分節 ・上層部：空に溶け込む背景としての落ち着いた色彩 <p>(6)</p> <p>＜枝川沿い＞</p> <p>樹種については、保存樹木や周辺との調和を考慮し検討していきます。</p> <p>また、建築のファサードや歩道状空地、間口緑視率によって植栽できる位置は制限がありますが、単調にならないよう気を付けます。</p>

景観アドバイザー一部会での意見概要と検討結果について

-議題 1-

浜甲子園団地第Ⅳ期計画（計画策定段階協議）

意見の概要及び協議事項	検討結果
<p><敷地内部の東西散策路> 扇形の樹木を中心に十分な緑陰を確保すると良いと思うが、やはり樹木の間から空が見えた方が内部空間としては気持ちよく感じる。また、そのように樹木が空を少し覆う東西散策路から開放的な南北散策路の空間に出ると、開放性もより際立つのではないかと。また、南北軸に比べて単調なのが少し気になる。スペース的に配植でリズムを生む余裕はないかもしれないが、樹種を混ぜるなど、ヒューマンスケールで考え、生活に近いランドスケープを検討すると良いのではないかと。</p> <p><歩行者専用道(敷地西側南北軸)> 緑がほとんどないが、西側第Ⅴ期エリアの更新時に、歩行者専用道をリデザインすると推察されるが、南北に長大な駐車スペースができるため、例えば芝生化する箇所に高木を少し植栽し、無機質で単調な駐車場空間を視覚的に分節し、ヒューマンスケールで検討してほしい。</p> <p><敷地全体> カイズカイクキが残っているようだが、安全面や今回の景観コンセプトから、特に重要なもの以外は取り除いても良いと思う。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	<p><敷地内部の東西散策路> 花木を中心に紅葉など、季節ごとの楽しみがある植栽を検討しています。 ご指摘の通り南北軸と同じようなリズムの創出は難しいですが、舗装等の検討により楽しんで歩いていただける空間にします。</p> <p><歩行者専用道(敷地西側南北軸)> 芝生化する駐車場においては、高木の設置は難しい状況です。 Ⅴ期敷地の歩行者専用道との境界沿いにおいては、可能な限り緑化し、緑景観の確保に努めます。</p> <p><敷地全体> ご指摘の通りカイズカイクキについては保存する計画はありません。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

景観配慮方針及びその方策

方針：屋外環境に配慮した配置計画

方策：
住民動線及び団地内景観への配慮から、歩路や緑地帯を効果的に織り交ぜることで、駐輪場のボリュームを分散させ、固まった大きい駐輪場スペースとならないよう団地内環境に配慮した計画とする。

方針：歩行者専用道に配慮した配置計画

方策：
西側の駐車場には、バランスよく緑地帯（芝生スペース）を設け、無機質な環境とならないようにする。V期敷地の歩行者専用道との境界沿いを可能な限り緑化し、緑景観の確保に努める。また、将来計画が未確定な西側の隣接地に対して、板状住棟の引きを設けることで双方に対する悪影響を避ける計画とする。

方針：枝川を意識したリズムと開放性のある建築計画

方策：
枝川沿いに東西板状住棟や住棟間に広場を配置することで、川沿いから開放感を感じられるように配慮する。また、1階部分については、川沿いに面するエントランスや集会所を統一したガラス面を使用することで、連続したリズムのある街並み景観形成を行っていく。

方針：緑豊かで変化に富んだ沿道景観の形成

方策：
保存樹木や周辺との調和を考慮した樹種、また花木を中心に紅葉など、季節ごとの楽しみがある植栽を検討する。また、植栽できる位置の制限はあるが、景観が単調にならないよう配慮し、舗装等の検討により楽しんで歩いていただける空間にする。

